

平成30年度 中学校道德の指導の重点

【本県の課題】

- ・学習指導要領に示された道德科の特質を踏まえていない授業。
- ・主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導。

【指導の重点】

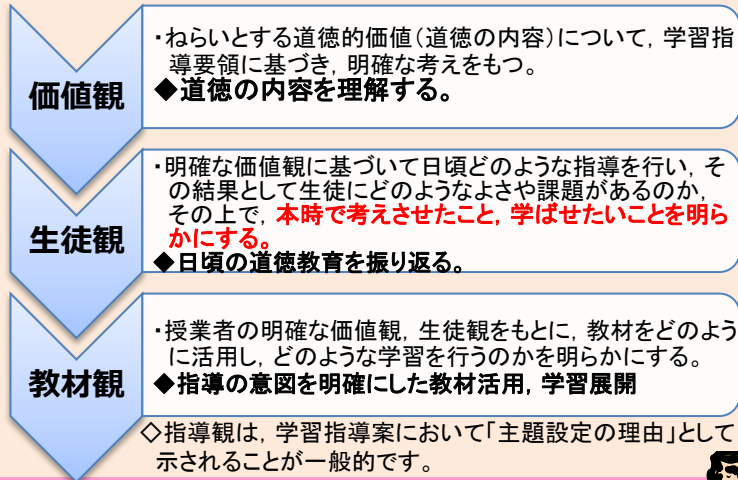
- ・「何について考えさせ、何を気付かせたいのか」を明確にした指導観をもつこと。
- ・「考え、議論する道德」の実現に向けた指導方法の工夫改善を図ること。
- ・組織的・計画的な評価方法の工夫改善を図ること。

「考え、議論する道德」の実現に向けた授業づくりの流れ

明確な指導観をもつこと

道德科のねらい（道德的価値）を踏まえ、道德科の授業で生徒に**何について考えさせ、何を気付かせたいのか**を明確にすること。

*指導観は、価値観（ねらいとする道德的価値について）、生徒観（生徒の実態について）、教材観（教材について）の3つの要素から成り立つ。



本時のねらい

中心発問

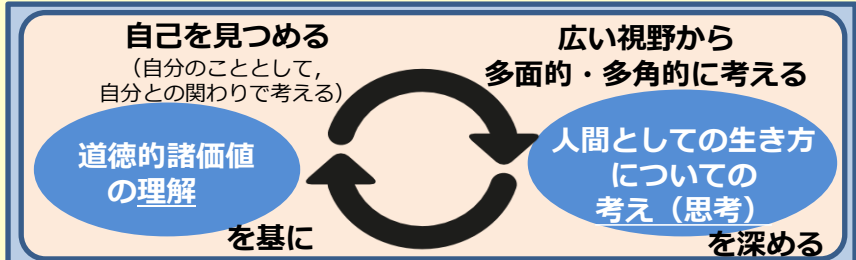
指導方法の工夫

発問構成
役割演技
ワークシート 等



◇指導過程、指導方法、教材・教具等の工夫は、目的ではなく手段である。

「考え、議論する道德」の実現に向けて大切にしたいこと



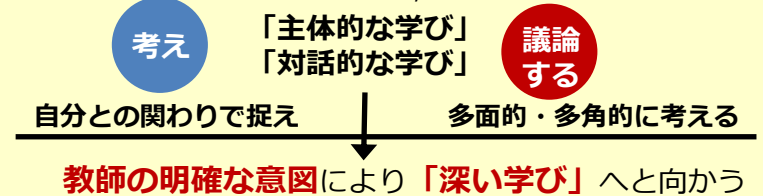
道德性を養うために行う道德科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める**学習**

積極的に受け止め、励ます個人内評価として行う道德科の「学習状況及び道德性に係る成長の様子」

観点別評価や他の生徒との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえ、道德科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうか注目に注目する。

◇「大きくくり」とは、学期や年間といった期間を表す。



◇「熊本の心」や「つなぐ～熊本の明日～」等を活用した授業の公開や地域の人々の参加・協力等、家庭や地域との連携による道德教育の推進を図りましょう。